2010年8月18日
八幡事業所　Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所　Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp

さわやか

第１６３号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

通院支援事業が〈全腎協〉最重要課題

宮本高宏会長より激文

（社）全国腎臓病協議会　宮本高宏会長から、「さわやか」に、激励文が送られてきました。この激励文は、「さわやか」新聞編集部が、宮本会長に、お願いして書いてもらったものです。宮本会長の、通院支援事業と「さわやか」に対する熱情が読み取れると思います。尚、紙面の都合上、一部割愛させていただきました。

（「さわやか」新聞編集部）

通院介護センター「さわやか」の皆さん　残暑お見舞い申し上げます

梅雨明けから、「猛暑」が続く今夏ですが、関係者の皆さん体調はいかがですか？

この厳しい暑さのなかでも、地域内の透析患者を中心とした通院支援活動にご尽力いただいておりますことに敬意を表します。

（社）全国腎臓病協議会
宮本　髙宏 会長

貴会の設立と活動継続の意義

１９９６年から当事者による介護の必要な患者仲間の通院を支援する「通院支援事業」を、全腎協の社団法人化にともなう公益法人の事業として位置づけ取り組みを始めました。

その第1号となる患者会

「さわやか」を支えたもの　～行政・ボランティア～

全腎協『要介護透析患者の通院対策』のなかで、「さわやか」の活動について、次の様に記しています。

「市内の中核病院に事業所を置いているほか、市からの助成金、マスコミを通じてのボランティア募集など幅広い方面からの理解と協力を得て運営されている。一般ボランティアが多く、全腎協内部で最も安定した事業運営を行っている」と。

「さわやか」は、その設立当初から、人的即ちボランティアの確保、財政的基盤の確立のため、行政からの助成金を得る等々施策を計画的に行ってきたことが、今日まで事業所運営を可能にしてきたと言えるでしょう。

何より、日々必要とする患者の通院支援にあたっていただいているボランティアの皆さんには、その理解と支援の志に、改めて感謝の気持ちを伝えさせていただきます。ありがとうございます。

また、「さわやか」設立から今日まで、1日おきの通院治療が前提となる透析患者の特殊性に鑑み、特段の配慮を持って、当事業所への運営助成を行っていただいている市行政には、その英断と先見性に敬意を表するものです。

こうした行政対応が、少しでも他自治体へ波及していくことを切に願いたいものです。

透析患者の現況と、今後の通院支援事業

２００９年末の国内透析患者数は約29万人、年間に約3.7万人が新たに透析治療を始め、残念ながら約2.7万人が亡くなり、約1万人ずつ依然として増加の傾向にあります。一方で、また、患者の平均年齢は、導入患者で６７・３歳、患者全体でも６５・７歳と、年々高齢化が進んでいます。これと治療の長期化が加わって、介護を必要とする患者、即ち一日おきの通院支援を必要とする患者が急増していくことは容易く予想されます。

全腎協として、この施設送迎の実態調査を行い、早急に今後の通院支援の具体策を講じて行くように準備を進めています。

また、「さわやか」設立を教訓として作成した「マニュアル」の改訂作業を行っており、今年中の完成とそれに基づく研修を予定しています。

患者現況から今後を展望する時、この通院支援事業が全腎協にとって直近の最重要課題であることは誰も否定出来ません。

「通院が困難だから、透析治療そのものが出来ない！」そんな悲惨な状況を招かないよう、全腎協・県組織・各事業所、そして行政・透析施設、また市民等々の知恵と力を集積して、今後も一人ひとりの患者が安心して治療生活を継続できる環境整備に全力を尽くしていきたいとの決意を新たにしています。

「さわやか」の引き続きの事業運営にご尽力いただくことと、合わせて全腎協の事業推進にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年8月18日　さわやか　第163号

祝 感謝と困難を乗り越えて

ほほえみながさき・ほほえみ佐世保 設立十周年記念合同祝賀会

七月十一日（日）に十時から長崎市の矢太樓南館で、ほほえみながさき・ほほえみ佐世保設立十周年記念合同祝賀会が行なわれ、両事業所のスタッフ、ボランティアさんをはじめ、関係団体より約六十名の参加がありました。「さわやか」から山田、梶原、江頭、高原、貞谷が参加しました。

主催の長崎県腎協横山靖会長から「ボランティアの皆様をはじめ、関係者のご尽力に対して心から敬意を表したいと思います。また、通院送迎事業は平成十八年十月に道路運送法の改正となり、通院送迎事業については今後も厳しいものと予想されます。本日ご出席の関係者の皆様、今後とも御指導、ご鞭撻のほど賜りますよう心からお願いします」と挨拶がありました。

ほほえみながさき
北川 修 理事長

ほほえみ佐世保
石田 光俊 代表理事

続いて、ほほえみながさきの北川理事長、ほほえみ佐世保の石田代表理事より挨拶がありました。

次に全国腎臓病協議会宮本会長、「ステップ福岡」中村理事長そして「さわやか」山田理事長から来賓挨拶がありました。山田理事長は、「当時の長崎県腎協の方々の情熱と奮闘で長崎県に通院送迎支援事業所が開所される事になりました。十年間事業を継続するという事がどんなに困難で多く問題を乗り越えて進んでいかなければならなかったのかという事が一番分っているのは私どもを含め、今日お集まりの三県の皆さんだと思います」と挨拶がありました。

感謝状を授与される
江頭　博幸 相談役

設立時に尽力した江頭博幸相談役他四名が感謝状を授与されました。

ほほえみながさきボランティア代表の古澤武敏氏と利用者代表の桜井満氏より日頃の思いや、感謝の気持ちを話されました。

その後交流会があり、各事業所や関係者の方々と久しぶりに会って、各テーブルで会話がはずんでいました。

祝賀会は十三時に閉会されました。

九州三県が一つになり問題解決を

第9回北部九州三県通院送迎事業研修交流会

引き続き、十三時二〇分から、第9回北部九州三県（長崎・佐賀・福岡）通院送迎事業研修交流会が、長崎県腎協主催で開催されました。

初めに、ほほえみながさきの北川理事長より、「九州は三県が、がっちり固まって意見交換会をしています。各地の情報を取り入れて、一事業所では、いろいろな問題に対して、取り組む事は難しいが、九州三県が一つになって問題を解決しながら一〇年間続けてこられました。今後も、発展していきたいと思います」と挨拶がありました。

続いて、（社）全国腎臓病協議会　宮本高宏会長による「通院介護支援事業の全腎協の取り組みについて」と題して講演がありました。

宮本会長は、現在の透析患者の現状や、要介護者の推移について話され、国民の四三〇人に一人が透析患者であると述べられました。

また、全腎協の状況としては、患者の高齢化や、長期透析による合併症の発症や、長期治療への不安などがあげられています。

次に、全腎協の腎不全対策として、安心、安全の透析治療、腎臓移植の普及、などに取り組んでいくと、話されました。

休憩をはさみ、北川理事長が、「宮本会長が来られているので、ぜひ皆さんから意見を出して全腎協の今後の取り組みに活かしてほしい」と挨拶があり、意見交換会に入りました。

全腎協に対する意見・要望

★一般の会員や、地元の会員も送迎事業を行っている事を知らない人が多いので、全腎協の会報に、通院送迎事業の事を載せてほしい。

それにより、組織率を上げる要素になるのではないでしょうか。

★全腎協の事業計画には、通院支援事業が大きく書かれていますが、事業を行い継続させる為の肝心な運営費の確保については全く書かれていない。

★新しく送迎事業を立ち上げる為のガイドブックを作成するとの事ですが、福祉有償運送という法律があり、その作成に対し、どのような人たちが携わったり、教えたりするのかが、不安です。

★全腎協が行っている事業所支援策のひとつ「福祉有償運送運転協力者講習会の助成金」について、一事業所、年間五名までとなっていますが、事業規模に合わせた助成をお願いしたい。

この他にも多くの意見や要望が出され、それに対し、宮本会長はひとつひとつ丁寧に答えられていました。

その後、次回開催地である佐賀県の「ふれあい」の鹿倉一代理事長より挨拶があり、十五時四十分に閉会しました。